

KSK じんかれんニュース

NO. 50 2020年8月号

発行人/ 神奈川県障害者定期刊行物協会

〒222-0035 神奈川県横浜市港北区烏山町 1752 番地

障害者スポーツ文化センター横浜 3 階
横浜市車椅子の会内

編集人/ NPO 法人じんかれん

(神奈川県精神保健福祉家族会連合会)

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-2

神奈川県精神保健福祉センター内

TEL 045-821-8796 FAX 045-821-8469

E-mail: jinkaren@forest.ocn.ne.jp

URL: <http://jinkaren.net/>

◆ 精神医療と当事者は今 新型コロナの影響は？

2020.5.27 NHKハートネットTV より

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、「精神医療や当事者を取り巻く現状、そして課題」について NHK において放映されました。精神医療現場における感染症対策は喫緊の課題です。

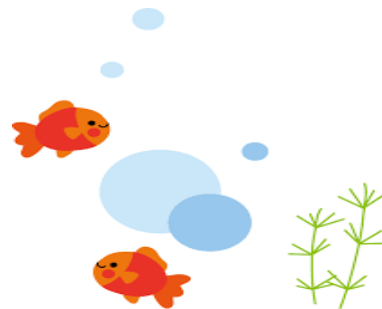
精神科医療が果たしている役割上、診療科の特殊性を考慮して十分な対策を行わなければ、院内に感染症を持ち込み、クラスター化し易いことが懸念されます。既に我が国の精神科病院における新型コロナウイルス感染やクラスターの発生が複数報告されています。一方、感染を不適切に恐れ、措置入院や精神科救急事例の受け入れを忌避することで地域の精神医療が滞ることがあってはならず、また精神疾患患者であるということ、本来受けるべき感染治療が受

けられないという事態もあってはならないことです。新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中、精神科病院や精神障害の当事者にも大きな影響が出始めています。精神科病院は閉鎖性が高い上に、たとえ新型コロナウイルス感染症の陽性者が出ても専門病院から転院拒否されることが多く、感染が拡大するリスクが高い現状があるなかで抜本的な解決策がないまま、その余波は在宅の当事者たちにも及んでいます。医療機関を取り巻く現状と、その課題にどう対処していくべきかを生放送で考えました。

精神科病院の特殊性を考慮して十分な対策を行わなければ、院内に感染症を持ち込み、クラスター化し易いことが懸念されます。

【現状と課題】

- ◎感染症の専門医不在。
- ◎精神疾患の患者は、検査、治療を後回しにされる傾向があり、転院を待つ間、院内感染が広がる。
- ◎精神科病院は密閉箇所が多い。



【医療者・当事者の声】

- ◎病院は、精神科のみを扱う単科病院で、マスクや防護服が不足していることなどから、感染者の対応が困難だと県に転院の相談をしたが、入院治療の継続を要請された。精神症状がある患者ということで転院できず、結果として感染者を出してしまい遺憾に思う。感染した精神科の患者の受け入れの仕組みが必要だ。

◎精神科に入院していたせいで、新型コロナウイルスの治療を受ける機会を奪われてはならない。

精神疾患があっても同じ人間である限りは、医療を受ける機会は平等であってほしい。

◎診療時間が減った。まわりとのつながりがなく、不安。

精神科病院では、新型コロナウイルスの陽性者であっても精神疾患があることで感染症の専門機関への転院を拒否されるケースも少なくなく、感染リスクが高い状況にあるという。当事者たちも必要な医療を受けられなかったり、環境の変化によって不安定になったりもしています。

5 月 27 日の放映で、精神科病院の院内感染が放映されていましたが、翌日の 5 月 28 日に東京小金井市の武蔵野中央病院（精神科病院）の閉鎖病棟でクラスターが発生。感染症の専門医不在、精神科特例による少ない医師、看護師の配置人数の減少…。接触した医療従事者が自宅待機となり、さらなる精神的・肉体的負担が職

員・患者を直撃していること、患者の感染者受入れを他病院が拒否すること（※今迄も他の疾病で入院治療を要する場合、病院側が受入れを拒否する偏見・差別実態は常態化していた）、保護室を隔離室として対応しているため入退院は停止状態になったことなど、深刻な実態が全国報道されました。都立松沢病院では常に感染リスクと隣合わせの中で、感染症対策の専門家とチームを組み、精神疾患と並行して治療にあたっています。医療従事者の皆様の献身的な対応には、心から感謝申し上げます。

（まとめ：三富

令和 2 年 5 月 31 日発行名家連ニュースより一部引用）



◆ 精神科医 森川すいめい氏 NHK にて語る
こころの時代 テーマ「対話の旅に導かれて」

5 月 31 日 NHK E テレ 05 : 00 ~ 06 : 00

(再) 6 月 6 日 NHK E テレ 13 : 00 ~ 14 : 00

池袋でホームレス支援をする精神科医の森川すいめいさんは、自身もつらい生い立ちを抱えながら、路上や被災地での対話を重ね、生きる道を探してきた。旅の到達地とは？ 森川さんは、池袋で 20 年間、路上生活者のための先駆的な支援活動に取り組んできた。今、コロナ禍で、住まいを失う人が急増する中、再び暮らしが取り戻せるように奔走している。活動の原点には、自らの壮絶な生い立ちがある。生きる道を求めてさまよった日々、気づきを与えてくれた路上や被災地の人々との出会い。さまざまな人生と対話する中で、自らの苦しみとも向き合った森川さんのこころの旅路を聞く。

台湾出身の父親の元で育った森川さんは、幼少期から、母と共に父親の暴力の中で育った。自分勝手に理不尽で思うようにならないと自分のプライドが傷つけられたと暴力を振るう父親。学校でもいじめの対象になっていた。

そのような父親には何も言えず、父親の勧めにより鍼灸師の資格を得ました。

その後大学へ入り、好きな旅と並行して阪神大震災の頃から、ボランティア活動も続けていました。それが現在も続けているホームレス状態の人々への支援活動でした。言葉を選ばずにいえば、始めは好奇心から野宿をしている人たち

のところへ行ったのですが、それがまた私の世界を広げることになりました。支援活動に参加するにあたって、私はホームレス状態の人々のことを全く知りませんでした。何の思いもなく、偏見すらありませんでした。何も知らないまま活動に行って、素直に感じたのが「なんでこんなに悲しんでいる人がいるんだろう」というこ

とでした。

いろいろな人と出会いました。死にたいという人も、路上生活から脱したいという人も、路上で癌になって亡くなってしまう人も、病院に行ったのに追い出されてそのまま亡くなってしまう人もいました。支援活動は憤りとの戦いでした。その憤りを解消したいということが、現在も活動が続けている理由のひとつです。

大学 1 年の冬、母親が癌で倒れ 3 年後、鍼灸師をやめ医師になることを決意。誰からも縛られない技法を習得して、絶対的なものを求めてきました。

私が精神科医の道を選んだのは二人の素晴らしい精神科医との出会いが大きかったように思います。ひとりは、当時ホームレス支援の現場にいらっしゃった先生です。どれだけ暴れている人でもその先生と話すときと落ち着くという先生でした。もうひとりは、精神科病棟での研修の際に出会った先生です。精神科医の先生は患者さんに悪口をいわれてしまうことも多いのですが、この先生の悪口をいう患者さんは誰もいませんでした。

二人とも有名な先生でしたが、権威者として有名なのではなくて、すごく良い先生だというのが噂で広まるタイプの人でした。患者さんのことを思っていて、なおかつ行動に移せるというのは、それだけ芯の強さが必要なのです。

阪神淡路大震災、東日本大震災のボランティアを経験する中で、辛い、悲しい状態にあるホームレスも一人の人間であることに触れました。ある時、あなたはどのような暮らしを望みますかと問うたところ、自分はウォッシュレットのある部屋に住みたいと言ったので、生活保護を受けている身で、そんな贅沢は認められませんよ、と諭したが、良く事情を聴くと自分は痔があり自分では始末ができないので、下着を汚したりするので、周りの人に迷惑をかけたくないので、現在は地下のウォッシュレットのある、公衆トイレを利用しているとのことでした。

皆にそれぞれの人生があり、懸命に生きていることを知り、自分だけの考え、思いを押し付けるのではなく、対等の立場で、相談に乗り、支援することが大事であることがわかりました。

現在、看護師、心理士、ソーシャルワーカーの仲間と支援団体を立ち上げ、月に 5 日、炊き出し、相談、就活、診察の世話をしています。

精神科医としては、フィンランドで 30 年間、投薬に頼らず、人間対人間の対話で治療を施し、成果をあげている「オープンダイアログ」について現地で 3 年間研修し、日本で実践しています。これは医師一人ではなく、関係者が本人と同じ目線で一緒に考え、治療する手法です。

以前、大学生を相手にワークショップを開いたとき、「強み・弱みワーク」というものを行いました。自分の弱みは自分で、強みはほかの受講生に言ってもらおうという内容でした。最初はみんな「こんなの意味あるのか？」という感じなのですが、やってみると「自分の強みって知らないのだ」「みんなが自分のことをこう思ってくれていたのだ」とすごく感動してくれました。自分の強みは簡単には見つからないですから、友だちに教えてもらったり、旅をしながら探したりして、ゆっくり見つけていけたらいいのかなと思います。

精神医療の観点からみると、人は弱みが強みに変わるときに大きな力を発揮します。例えば人の顔色ばかりをみて生きていかざるを得ない子どもは、誰かを支援する職に就くとすごく力を発揮することがあるのです。顔色をみるのが得意だから、人の困っていることがわかる能力ですね。でもそれだけではだめで、そのときに、顔色を見つつも自分で意思決定ができないといけないのです。実は、弱みが強みに変わろうとするときに、それを邪魔する別の弱みというものがあります。その「邪魔する弱み」が何か、ということがわかると強みがしっかり生きるようになります。

人の顔色を見てしまうという弱みを、人の困っていることがわかるという強みに変えるとき、その邪魔をするのは自分に軸がないという弱みです。「自分はこれでいくノートパソコン

だ」という軸を持てば周りに流されることがなく、力を発揮することができます。

人は弱みや欠点を沢山持っているものですが、欠点を直しなさいという考え方は非常にナンセンスで、すべての欠点なんて直るはずはありません。でも一個だけなら欠点を直す努力はできると思うのです。つまり自分の強みを邪魔する



欠点だけを直せばいいのです。今しんどい思いをしている子がいるとしたら、生きやすい方法はあるのだということを信じてほしいですね。私はこれからも、自分に嘘をつかずに生きていきたいと思います。具体的に何をするかということは、その時、周りに誰がいたかによって変わってくると思うのです。でも何をすることになったとしても、自分に嘘をつかずに生きていきたいです。

長い『旅』での結論は、相手がどのような立場にあらうとも、人として、医師として接する場合、上から目線でなく、対等の立場で対話することです。

◆ パワハラ 労災基準

2020 年 5 月 31 日神奈川新聞より

うつ病など精神障害による労災を認定する際の基準に、新しく「パワーハラスメント」が加わることになった。パワハラ防止を企業に義務付ける女性活躍・ハラスメント規制法の施行に合わせ 6 月 1 日から適用される。従来パワハラ被害は嫌がらせやいじめなどの一類型とされてきたが、項目を新設。労災問題に詳しい弁護士からは「労災が認められやすくなる」と歓迎する声上がる。精神障害の労災認定は、発病前の約 6 か月間に業務による強い心理的負荷が認められることが要件。認定の可否を速やかに判断するため、厚生労働省は「悲惨な事故や災害を体験した」「業務に関し違法行為を強要された」など、労働者に負荷がかかる具体的な出来事を 30 以上例示している。パワハラは出来事のうち「(ひどい) 嫌がらせ、いじめまたは暴行を受けた」に含まれてきたが、主に上司から「身体的攻撃、精神的攻撃などのパワハラを受けた」を新たに追加攻撃が執拗だった場合

《県と県教育委員会 新たに処分規定》

県と県教育委員会は 5 月 29 日、懲戒処分の指針を一部改正し、パワーハラスメントを新たに追加する、と発表した。国の法改正を踏まえ、パワハラ防止への取り組みを強化する。いずれも 6 月 1 日から施行する。県の指針は懲戒処分の内容を明確化するため、行為の悪質性や被害者に与えた影響の大きさなどに応じて処分に

は負担が「強」と判定され、労災認定がされやすくなる。

パワハラの定義は規制法で「優越的な関係を背景に、業務上必要かつ相当な範囲を超えた言動で就業環境を害する」とされ、厚労省はこれを踏襲する。また同僚や部下からのハラスメントは引き続き、嫌がらせやいじめ、暴行として判断する。厚労省によると、2016～18 年度に嫌がらせなどで労災認定したケースは計 230 件。うちパワハラに該当するとみられるのは複数の要因が原因となったものを含め、上司による精神的攻撃が約 160 件、身体的攻撃が 70 件となっていた。ハラスメントに詳しい新村響子弁護士は「現状は重大なパワハラ以外は労災と認められないが、今後は判断しやすくなるのではないかと評価した。一方、過労死弁護団全国連絡会議は「加害が『執拗』であることを要件に入れるべきではない」とする意見書を出した。

差をつける。パワハラをした職員は「停職、減給または戒告」。指導や注意を受けても繰り返した職員は「停職または減給」相手を強度の心的ストレスによって精神疾患にさせた職員は「免職、停職または減給」とした。県教委も同様の内容となっている。

◆2020 年度 じんかれん巡回学習会
「オープンダイアログを学ぶ」
海老名・鎌倉・小田原の 3 か所で順次開催いたします。



第 1 回オープンダイアログ巡回学習会 IN 海老名
『オープンダイアログの実践』

講師：三ツ井直子氏（訪問看護ステーション KAZOC(かぞっく)看護師）他

この度、2020 年度じんかれん主催「オープンダイアログ」巡回学習会の第 1 回目を海老名市で開催することになりました。

海老名での三ツ井さんたちの講演は、昨年に続き 2 度目であり、内容的にも前回よりさらに進化したものになるだろうと期待されます。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：2020 年 9 月 12 日(土)13:00～16:30

会 場：海老名市総合福祉会館 1 階 娯楽室 定員 69 名 無料 要申込

コロナ感染防止（3 密回避）のため、定員になり次第締め切らせていただきます。

※定員については、当初 80 名でご案内いたしましたが、行政の指導により 69 名といたしました。
ご了承願います。

《 会 場 案 内 》

住所：海老名市めぐみ町 6 番 3

会場はカーペットのため、靴入れ袋をご使用下さい。

公共機関を利用してご来館下さい。

小田急線・相鉄線「海老名駅」西口より徒歩 7 分
相模線「海老名駅」東口より徒歩 7 分



《 問い合わせ 》

「2πr」 双田 080-2333-4987
フレッシュ厚木 小野 080-5688-4457
NPO 法人じんかれん 045-821-8796 (火・木曜日 10:00～16:00)
なお、コロナの感染状況により、開催の可否についてご不明の場合は、お問合せ先にご確認下さい。

☆☆☆ プログラム ☆☆☆

- 12:30 受付開始
13:00 開 会
13:05 講 演
1. オープンダイアログとは？
リフレクティングのワーク／面接場面のロールプレイ
 2. 訪問看護実践の中での具体事例
 3. KAZOC 立ち上げにまつわるお話・(課題など)
 4. 質疑応答
- 16:30 閉 会
17:00 懇親会 (希望者は要申込、会費：500 円、定員：20 名)
18:00 終 了

お申込み：8 月 20 日(定員になり次第締切)までに、次の方法でお申込み下さい。

1. 2πr 事務所 E-mail : kohjikin.201161@jcom.home.ne.jp または、FAX : 046-233-3941
2. 電話 : 「2πr」 ^{そうだ} 雙田 : 080-2333-4987
フレッシュ厚木 小野 : 080-5688-4457

「講師の自己紹介」 (敬称略)

1. 三ツ井 直子 : 28 歳で日本を出て、バックパックを担いでタイ、ネパール、インド、ヨーロッパからモロッコを旅してイスラエルに定着。37 歳で日本に帰国し看護師に。東京都立松沢病院勤務を経て、訪問看護ステーションの KAZOC にて、今年で訪問看護師 6 年生。統合失調症の弟とご近所暮らし。
2. 渡邊 乾 : 2013 年に精神科訪問看護ステーションの KAZOC を開設。その後、グループホーム「まにまに」を追設。現在、約 300 名の利用者と約 30 名スタッフで、地域生活支援活動を実施中。コンセプトは「管理しない」、「変容を求めない」、「ノージャッジメント」
3. 福井 里江 : 心理士として教育や実践に携っています。対話の中でその人とともに居続けること、思いを出し合える場を作ること、苦しいときに誰もが受けたいと思える精神保健システムに向けて仲間を増やし、手をたずさえて歩いていくこと・・・を大切に考えています。
4. 川島 美由紀 : 猫が大好きで猫二匹とひっそり暮らしている精神科訪問看護師です。方向音痴なのですが、知らない道を通る事が好きでよく道に迷いながら動いております。色々な場所で様々な出会いにワクワクしています。よろしくお願い致します。
5. 中島 裕子 : 池袋から二駅、千川駅のすぐそば、就労継続支援 B 型 Base Camp の生活支援員/看護師。べてるの家で生まれた「当事者研究」の活動を続けている。好きな詩は茨木のり子「汲む」
6. 小島 かほる : 1977 年生まれ。長野県飯山市出身。2017 年より豊島区要町にある「ゆうりんクリニック」に勤務。初めて家族会にお邪魔させていただきます。緊張もしますが、とても楽しみです。9 月にお会いできることを願っています。
7. 村杉 香織 : 訪問看護ステーションの KAZOC で働く作業療法士です。人には、沢山の層や側面があると思っています。それゆえ希望をもっていたいし、ゆっくり利用者さんとお話しを重ねる中、新しい出会いが生まれプロセスの中にいる事を日々感じています。

主催 NPO 法人じんかれん (神奈川県精神保健福祉家族会連合会)
海老名精神保健福祉促進会 「2πr」・精神保健福祉促進会 フレッシュ厚木

※第 1 回オープンダイアログ学習会 IN 海老名 参加申込書

申込:2020 年 月 日

	氏 名	所 属	連絡先 (TEL など)	懇親会
1				
2				
3				

* 懇親会に、ご参加希望の方は「懇親会」枠に○をお付け下さい。

第 2 回オープンダイアログ巡回学習会 IN 鎌倉

『オープンダイアログから学ぶこと～心が通う対話～』

オープンダイアログの紹介編です。オープンダイアログの理念を礎にして訪問看護に取り組んでいる「**KAZOC**」の方々が、私たちの生活の中に、心通う人間関係を築く「開かれた対話」について語り、実演していただきます。

講師：三ツ井直子氏（訪問看護ステーション「**KAZOC**」看護師）他

日時：2020 年 10 月 7 日(水) 13：30～16：00

場所：鎌倉芸術館 集会室 JR 大船駅下車徒歩 10 分

定員：50 名 参加費無料

参加申し込み：9 月 30 日までに 090-6126-2630

小形(おがた)へ

※コロナの影響で開催の可否についてご不明の場合は、上記申込先にお問い合わせください。

※参加者は、マスクの着用をお願いいたします。

※申込書はありませんので電話でお申込み下さい。



主催：NPO 法人じんかれん（神奈川県精神保健福祉家族会連合会）・青い麦の会

《第 3 回オープンダイアログ巡回学習会 in 小田原：2021 年 2 月 19 日（金）開催予定》



第 47 回「県民の集い」開催延期のお知らせ

2020 年 11 月 7 日(土) 大和市で開催を予定しておりました第 47 回「県民の集い」は、新型コロナウイルスの感染状況が見通せず、県下他団体も大規模な講演会・研修会は中止していること等、参加者の健康と安全を踏まえて今年度は中止することとし、来年度の同時期に開催予定と致しました。尚本年度、宮崎で開催予定のみんなねっと全国大会も中止となりました。



2020 年度 精神障害者家族相談員養成事業

NP0 法人じんかれん 研修会のお知らせ

テーマ

家族にとっての「対人コミュニケーションのコツ」
相手と話し合う理論と技術



講師 日本ケア・カウンセリング協会

代表理事 品川博二 氏

昨年度の講演後、皆さんから「もう一度」という希望が多く、再び当事者とのコミュニケーションについてお話を伺います。さらに深い学びが得られるでしょう。

- ♥ 日時 2020 年 10 月 6 日 (火) 10 時 ~ 12 時
- ♥ 場所 かながわ県民センター304 会議室 (横浜駅西口 徒歩 5 分 ヨドバシカメラそば)
- ♥ 参加費 無 料
- ♥ 定員 先着 30 人 (県からの要請により)

※お申し込みの必要はありません。どなたでも参加できます

※咳・発熱等、症状のある方はご遠慮ください。

主 催 NP0 法人じんかれん

お問合せ NP0 法人じんかれん (事務所火・木 10:00~16:00)

電話 045-821-8796 FAX 045-821-8469

【編集後記】

今年の 3 月に 18 歳の時に免許をとってから 10 数回目の免許更新手続きをしました。75 歳以上ということで義務化された事前の認知機能検査を受けました。その結果、臨時認知機能検査と高齢者講習 (実車指導と個人指導) を受験する必要があるとのことで 3 時間の講習を受けました。動体視力と視野の衰えを指摘されました。身体機能の低下、心身機能の変化を自覚しました。サイドミラーに頼らず、左右を目視で確認することが大切との指導を受けました。特に高齢者に多いのは逆走、スピードの出過ぎ、一時不停止、ブレーキとアクセルの踏み間違いとのこと。今回は何とか、免許更新をすることができましたが、運転適性の低下をさらに自覚した時は自主返納を考えました。今後の運転に際しては、夜間は極力運転せず、安全運転 5 則を守って運転することを誓いました。①安全速度を必ず守る。②カーブの手前でスピードを落とす。③交差点では必ず安全を確かめる。④一時停止で横断歩行者の安全を守る ⑤飲酒運転は絶対にしない。

(三富)



じんかれん家族相談のご案内

◆研修を積んだ家族相談員による電話相談

毎週水曜日 10 時 ~ 16 時

☎ 045-821-8796

※困っていること、悩んでいることなどお話し下さい。

◆精神保健福祉の専門家による面接相談

毎月第 3 水曜日 13 時 ~ 16 時 (要予約)

相談場所: 伊勢原 KIVA こだま
(伊勢原市伊勢原 3-27-11)

予約電話: 火・木曜日 10 時 ~ 16 時

☎ 045-821-8796

※相談料無料・相談内容は秘密厳守します。